

けいひたる事、是より古くもあるかたづぬべし、友人指山云、今佛に備ふるのみ茶たうといふ是なり、の、字を略たるが故に、湯を音にたうなり。

〔茶道要録下法〕茶之湯之起付掛物之事

一數奇之事、字書曰、一者奇也、二者耦也ト注ス、其文彩从大从可、俗作奇非也ト見タリ、又數之餘零謂之奇、易大傳云、歸奇於扚以象閏トナリ、李廣傳云、大將軍陰受上誡以爲李廣數奇也、母令當單于、按ニ、單于者匈奴ト云テ北狄主ナリ、是數奇ノ字義ノ解也、世ノ富賑ト忿々タルヲ遁テ、寒素ニシテ聚螢映雪、貧乏ヲ樂ミ、山居シテ遣世慮者、世俗ノ眼ヨリ見時ハ、誠ニ人タル數ノ餘零數奇者ト云ツベシ、數奇屋ト云モ、是以推テ知ベシ、數奇ト連綿ノ字也、繫辭本義ニモ、奇者所撰數之餘也ト云リ、曾テ聞事アリ、茶道ハ侘ワヲ本トス、故ニ茶具一色ヲ數度ニ用ユ、奇ハ一也、是以テ數奇ト云ト、大ニ異也、不可用數音主也、奇音鷄、从大从可、俗作奇非也、

一侘之字之事、音嘆、侘條ト續キ、志ヲ失フノ貌トテ、我心ノ之所ニ任セズ、事不足ヲ云、離騷ノ注ニ、侘立也、僚住也、憂思失意、住立而不能前也ト云リ、僚音掣、止也、宋玉九辯曰、欲僚而沈藏トアリ、欲同、音坎ニシテ物不足、故ニ自ラ沈ミ藏レ居也、

〔筆のすさび上〕茶事を嗜むに、侘といひ數奇といふ事、第一の義なり、風雅に物好をし、閑寂のわびたるをたのしむ事よりいふなり、そのわびをたのしむ中に、好古の志ありて、古器の雅趣ある品を鑒定して翫びたのしむ、是即數奇なり、雅韻風致を賞する處、彼禪味と同じきゆゑに、禪林の高徳とも旨趣の愜ふと仕たるものなり、その趣を露えらすして、只がぶくと茶をのむ人を茶人とはいふべからず、

〔隨意錄三〕方俗謂茶技爲數奇道、不知何謂也、問之其好事徒則曰、多集古奇故也、予田家謂是臆說耳、漢書李廣傳曰、李廣數奇、母令當單于、恐不得所欲、註數音所角反、非也、師古云、言廣命隻不耦合、是也、